

中学校英語スピーキングテスト 令和7年度実施状況について

令和8年5月28日
教 育 庁

1 実施概要

	ESAT-J YEAR 1 (Y1) : 第1学年対象	ESAT-J YEAR 2 (Y2) : 第2学年対象	ESAT-J YEAR 3 (Y3) : 第3学年対象
	YEAR 1	YEAR 2	YEAR 3
(1)日程	実施期間：令和8年2月2日（月）から3月16日（月）まで 追試験日：令和8年3月26日（木）・30日（月） ※ やむを得ない理由により受験できなかった生徒個人を対象として実施		実施日：令和7年11月23日（日・祝） 追・再試験日：令和7年12月14日（日）
(2)受験人数	66,748人	66,210人	70,489人
(3)会場	実施日：各中学校 予備日：都有施設 2会場		11月23日：都立学校 191会場 民間会場等 38会場 12月14日：都立学校 6会場 民間会場等 17会場

2 ESAT-J出題及び評価

(1) 出題形式及び評価の観点

	YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3		評価の観点
Part A	音読	1問	音読	2問	音読	2問	・ 音声（発音と強勢、音読するペースや間の取り方などが適切か。）
Part B	会話	3問	会話	4問	会話	5問	・ コミュニケーションの達成度（求められていることに適切に対応しているか。）
Part C	イラスト説明	1問	イラスト説明	1問	ナレーション	1問	・ 言語使用（語彙や文法、文構造の使用が適切か。）
Part D	ナレーション	1問	ナレーション	1問	ショートスピーチ	1問	・ 音声（発音、話すペースや間の取り方などが適切か。）

(2) 各テストの測定範囲と目標とするレベル

参考 CEFR	参考 CEFR-J ※	YEAR 1	YEAR 2	YEAR 3	ESAT-J GRADE
A2	A2.2				A
	A2.1				
A1	A1.3				B
	A1.2				C
	A1.1				D
Pre A1	Pre A1				E
					F

… 測定範囲

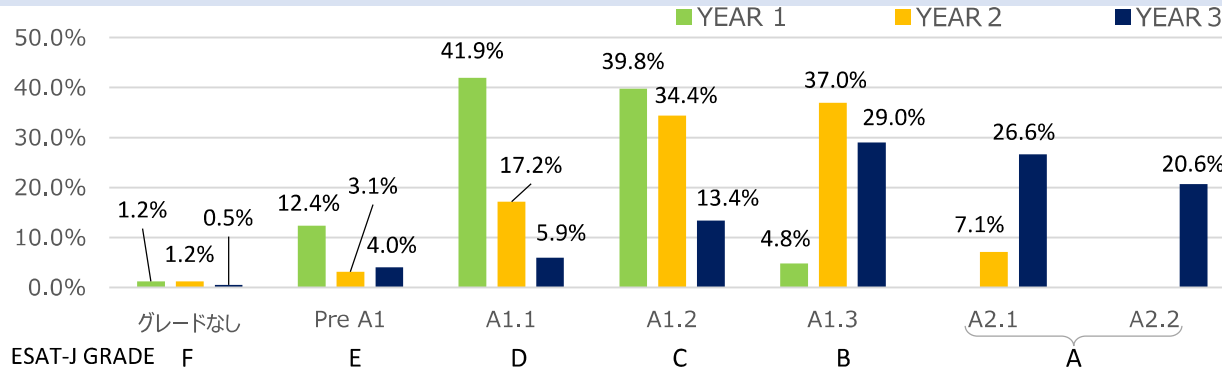
… 目標とするレベル

※ CEFR-Jは、外国語能力の参照基準であるCEFRを基に、日本の英語教育での利用を目的に作られた英語能力指標

(3) 評価

YEAR 1 及び YEAR 2	各テストの目標とするレベルに到達しているかどうかを 3段階で総合的評価 { Excellent! 目標とするレベルを超えている。 Good! 目標とするレベルにある。 You can do it! 目標とするレベルまでもう少し。 }
YEAR 3	ESAT-J GRADE（6段階評価） で評価

3 令和7年度 YEAR 1 / YEAR 2 / YEAR 3 結果概要 (令和7年度 1年生～3年生)



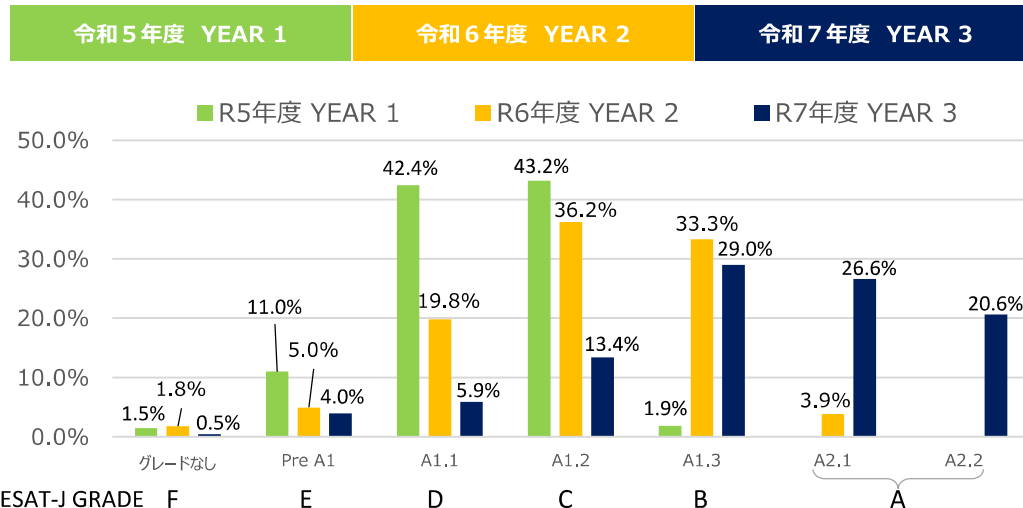
■ 学年が上がるにつれて、CEFR-Jレベルは着実に上昇

- ・ YEAR 1 の最上位の A1.3 の割合 4.8% に対し、YEAR 2 では A1.3 の割合は 37.0% となった。
- ・ YEAR 2 の最上位の A2.1 の割合 7.1% に対し、YEAR 3 では A2.1 の割合は 26.6% になり、更に YEAR 3 の最上位 A2.2 の割合も20%超となった。

※ 参考CEFR-J レベルは、各学年の測定範囲より高いレベルの場合でも、測定範囲内の一番高いレベルで表示

4 YEAR 1 / YEAR 2 / YEAR 3 経年変化 (令和7年度 3年生)

(図1)



■ 令和7年度3年生は、1年生時から2年生時にかけて**全体の分布がCEFR-Jレベルで1段階程度上昇**。その後、2年生時から3年生時にかけて**CEFR-Jレベルで全体の分布が1段階程度上昇**するとともに、**A2 レベル以上の生徒の割合が3.9%から47.2%に増加** (図1)

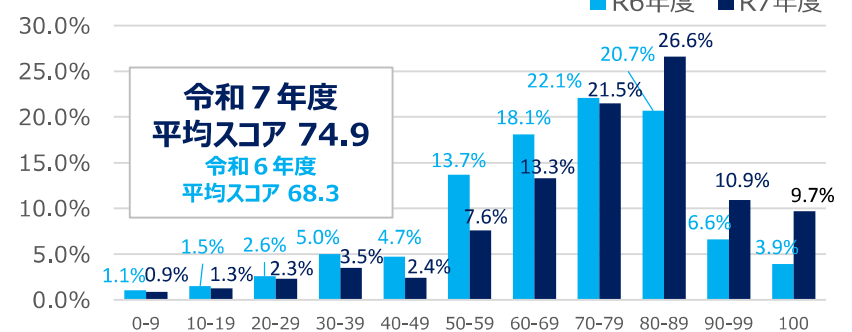
■ 令和6年度3年生と令和7年度3年生のスコアを比較すると、令和7年度では、**スコア80以上の生徒の割合が令和6年度の31.2%から47.2%に増加し、平均スコアも6ポイント以上上昇** (図2 (1))

■ 令和7年度3年生の ESAT-J GRADEは、「**B**」評価以上の割合が約8割になるとともに、「**A**」評価以上の生徒の割合が5割近くまで上昇 (図2 (2))

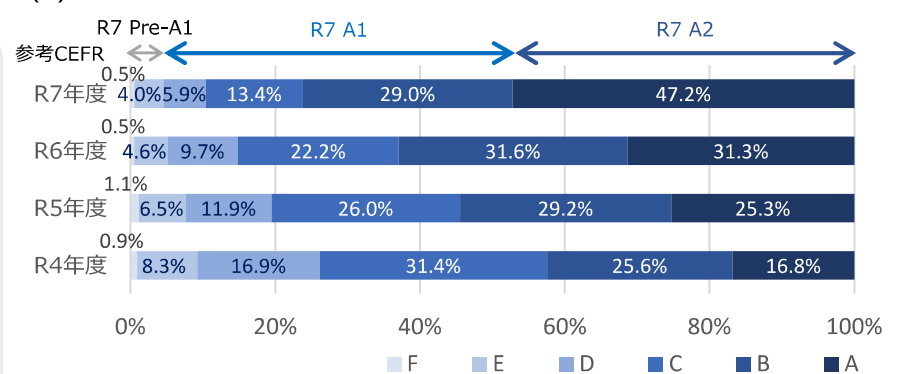
(図2)

ESAT-J YEAR 3

(1) スコア分布 (令和6年度及び令和7年度)



(2) ESAT-J GRADE 度数分布 (令和4年度から令和7年度まで)



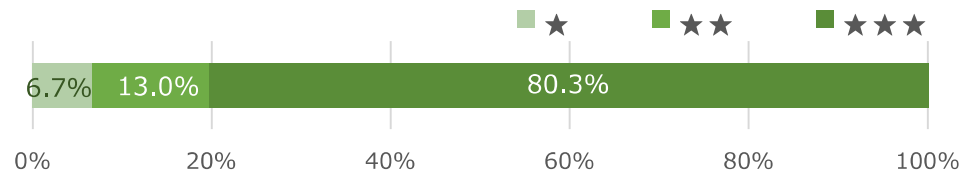
5-1 結果 (ESAT-J YEAR 1)

Part A

出題のねらい ▶ 英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。

◇問題 聞いている人に、意味や内容が伝わるように、英文を声に出して読む。

How do you study English? I usually listen to popular songs in English. I watch music videos of them, too. I can learn new words from songs and videos.

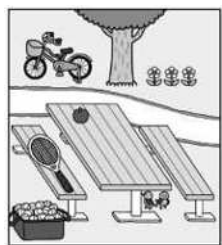


○ 「★★★」では、個々の語の発音や強勢（ストレス）が分かりやすく、読む速さや間の取り方が適切で、文章の意味や内容を聞き手に十分伝えている解答が見られた。

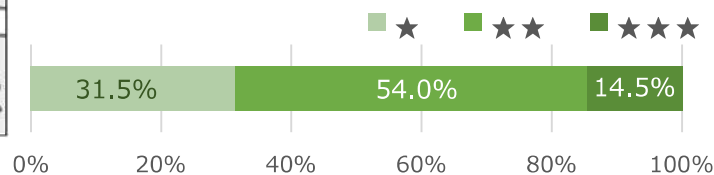
- 授業改善に向けたポイント（意識すべきこと）
- ・ 複数の音節から成る語の強勢（ストレス）の位置（例：usually, popular など）
 - ・ 音のつながり（例：popular songs in English など）

Part C

出題のねらい ▶ イラストに描かれた状況について、物の位置などを相手に伝わるように説明する力をみる。



◇問題 1枚のイラストについて英語で説明する。どこに、何が見えるか、できるだけ多く解答する。



○ 「★★★」では、物の名前と位置について、5個以上、適切に説明している解答が見られた。

- 授業改善に向けたポイント（取組例）
- ・ 前置詞等を用いて、物の位置などを説明する機会を充実させる。その中で、物を表す様々な語や、前置詞に関して、生徒が多様な語彙を身に付けられるようにする。

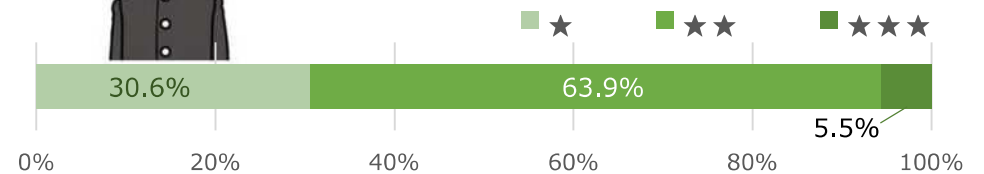
Part B

出題のねらい ▶ 質問を聞き取った上で適切に回答する力、自分から質問する、考えや意図を伝えるなど、やり取りをする力をみる。



◇質問に解答する問題
No.1 What do you do in your free time?
No.2 When do you usually do your homework?

◇質問する問題
No.3 「知っている日本の歌の数」



○ 「★★★」では、全ての問題に適切に解答しつつ、関連した情報も加えている解答が見られた。

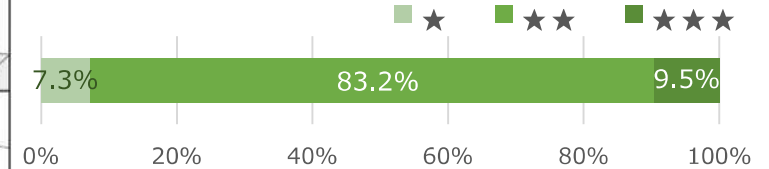
- 授業改善に向けたポイント（取組例）
- ・ やり取りを通じて、自分や相手のこと、身の回りなことなどについて伝え合う機会を充実させる。その中で、生徒が様々な疑問詞を活用できるようにする。

Part D

出題のねらい ▶ 日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。



◇問題 日曜日の習慣を表す3枚のイラストについて、順番に説明する。



○ 「★★★」では、各イラストの時間の表現（at seven twenty a.m. など）や、接続詞等（and, then など）を使い、一連の行動としての流れを意識しながら、全てのイラストを適切な表現で説明している解答が見られた。

- 授業改善に向けたポイント（取組例）
- ・ 日常的な行動の説明に必要な語句（動詞等）を活用させることを通じて、その定着を図る。
 - ・ 適切な接続詞を使用しながら、生徒が一連の行動を描写する機会を充実させる。

5-2 結果 (ESAT-J YEAR 2)

Part A

出題のねらい ▶ 英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。

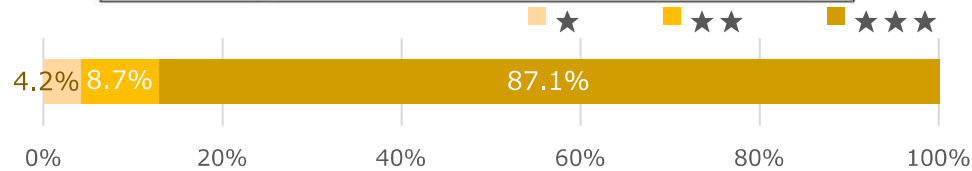
◇ 問題 聞いている人に、意味や内容が伝わるように、英文を声に出して読む。

No.1

What do you usually do on weekends? I often visit the library near my house. It has many books and videos about animals. I can learn about different animals from them.

No.2

This is Rina. She's from India. She started playing the piano when she was five. If you go to the town festival tomorrow, you can listen to her music. She will play her favorite songs.



○ 「★★★」では、個々の語の発音や強勢（ストレス）が分かりやすく、読む速さや間の取り方が適切で、文章の意味や内容を聞き手に十分伝えている解答が見られた。

- 授業改善に向けたポイント（意識すべきこと）
 - ・ 複数の音節から成る語の強勢（ストレス）の位置（例：usually, favorite など）
 - ・ 音のつながり（例：many books and videos about animals など）

Part B

出題のねらい ▶ 質問を聞き取った上で適切に応答する力、自分から質問する、考えや意図を伝えるなど、やり取りをする力をみる。

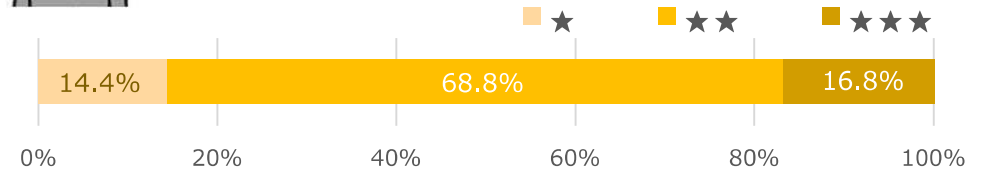


◇ 質問に応答する問題

- No.1 What do you like to do on rainy days?
- No.2 Which do you like, playing sports or watching movies.
- No.3 Why do you think so?

◇ 質問する問題

- No.4 「今夜夕食後にすること」

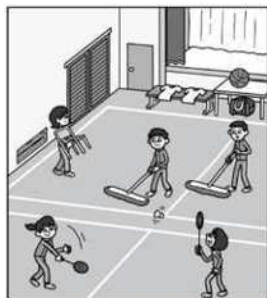


○ 「★★★」では、全ての問題に適切に解答しつつ、関連した情報も加えている解答が見られた。

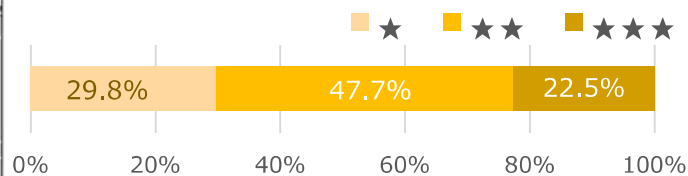
- 授業改善に向けたポイント（取組例）
 - ・ やり取りを通じて、生徒が互いの考えやその理由などについて伝え合う機会を充実させる。その中で、生徒が既習の時制や疑問詞等を活用できるようにする。

Part C

出題のねらい ▶ イラストに描かれた状況について、物の位置や人物の動作などを相手に伝わるように説明する力をみる。



◇ 問題 イラストに描かれた状況について、どこに何があるか、誰が何をしているか説明する。



○ 「★★★」では、イラストにある物の位置や人物の行動について、5点以上、適切に説明している解答が見られた。

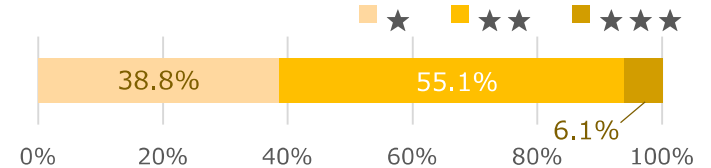
- 授業改善に向けたポイント（取組例）
 - ・ 既習の前置詞等を用いて、物の位置などを説明する機会を充実させる。
 - ・ 現在進行形を用いて、人物の行動を描写する機会を充実させる。

PART D

出題のねらい ▶ 日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。



◇ 問題 先週の出来事を表す3枚のイラストについて、順番に説明する。



○ 「★★★」では、順序を表す表現（After that, Then など）を使い、一連の出来事としての流れを意識しながら、全てのイラストを適切な表現で順序立てて説明している解答が見られた。

- 授業改善に向けたポイント（取組例）
 - ・ 過去の出来事の説明に必要な語句（動詞の過去形等）を活用させることを通じて、その定着を図る。
 - ・ 適切な接続詞等を使用しながら、一連の出来事を順序立てて説明する機会を充実させる。

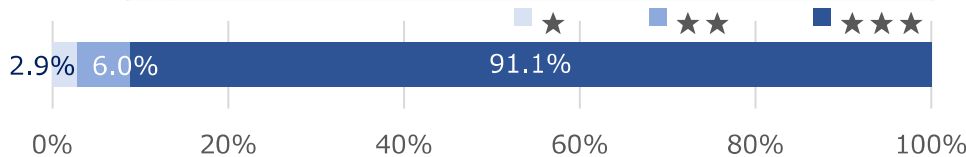
Part A

出題のねらい ▶ 英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。

◇問題 聞いている人に、意味や内容が伝わるように、英文を声に出して読む。

No.1 This is Emily. She is from Australia. There are many kinds of animals in her country, and she has a lot of pictures of them. If you are interested in her pictures, you can ask her to show them to you.

No.2 I'm a member of a volunteer club. It has more than twenty members, and we do many things to make our town's environment better. For example, we clean the park every month. I think that it's important for us to do volunteer work.



○ 「★★★」では、個々の語の発音や強勢（ストレス）が分かりやすく、読む速さや間の取り方が適切で、文章の意味や内容を聞き手に十分伝えている解答が見られた。

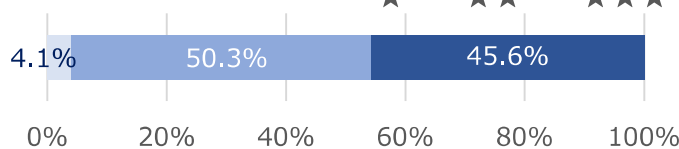
- 授業改善に向けたポイント（意識すべきこと）
 - ・ 複数の音節から成る語の強勢（ストレス）の位置（例：interested, environment など）
 - ・ 音のつながり（例：she has a lot of pictures など）

Part C

出題のねらい ▶ 日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。



◇問題 先週の出来事を表す4枚のイラストについて、順番にストーリーを説明する。



○ 「★★★」では、出来事の流れを示す語句（After that, So など）や場所を示す語句（In the room など）を適切に使い、一連の出来事を順序立てて説明している解答が見られた。

- 授業改善に向けたポイント（取組例）
 - ・ 生徒が、出来事の流れを意識しながら適切な接続詞を活用して表現する機会を充実させる。
 - ・ 日常の出来事を説明できるよう、必要な語彙の定着を促す。

Part B

出題のねらい ▶ 図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、提示された情報をもとに「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。

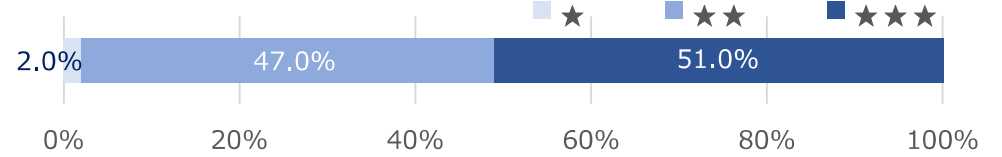


◇質問に応答する問題

- No.1 Which do you want to try?
- No.2 Why do you want to try that?
- No.3 What sports do you like to watch?
- No.4 What is the first thing you do every morning?

◇質問する問題

- No.5 「日本の中で行ってみたい場所」



○ 「★★★」では、全ての問題に適切に解答するとともに、関連した情報も加えている解答が見られた。

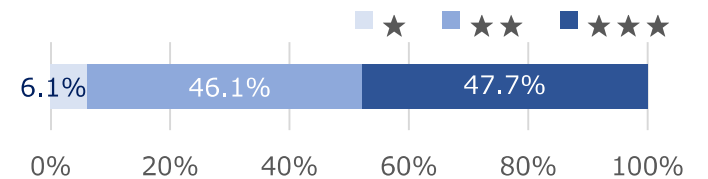
- 授業改善に向けたポイント（取組例）
 - ・ やり取りを通じて、生徒が互いの考えや気持ち、その理由、体験したことなどについて伝え合う機会を充実させる。その中で、生徒が既習の時制や疑問詞等を活用できるようにする。

Part D

出題のねらい ▶ 身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由などを伝える力をみる。



◇問題 与えられたテーマについて、自分の意見とその理由を述べる。



○ 「★★★」では、In my opinion, などを用いて自分の意見を述べるとともに、理由を述べる際にはFor example, など用いて具体例を加えている解答が見られた。また、So, などを用いて結論を分かりやすく説明している解答が見られた。

- 授業改善に向けたポイント（取組例）
 - ・ 様々なテーマに関して、生徒が自分の意見を述べる機会を充実させる。
 - ・ 多様な視点から、生徒が根拠や具体例など、追加の情報を加えられるよう支援する。

6 令和8年度取組の方向性

- 生徒が、次の目標を意識しながら継続的に学習できるよう、教材等の更なる充実を図る。また、中学校等における授業改善に活用するための各種資料を充実させる。
- よりよい実施・運営に向け、試験当日の進行、オペレーションなどについて、事業者と緊密に連携して検証を行い、不断の改善・充実に努める。
- ポータルサイトの利便性の更なる向上を図るとともに、引き続き、動画やリーフレットなどを活用し、丁寧に情報提供を行う。

7 今後のスケジュール

ESAT-J YEAR 1		ESAT-J YEAR 2		ESAT-J YEAR 3	
5月	令和7年度実施分の個人レポート公開			5月	令和8年度実施要項公表
	令和8年度実施要項公表			6月	中学校対象説明会
2月～3月	各中学校において実施			11月22日	本試験実施日
(令和9年5月	令和8年度実施分の個人レポート公開)			12月13日	追試験・再試験実施日（予備日）
				1月	結果返却